

令和5年度 静岡大成高等学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
目指す教師	1. 生徒の自律を支援する。	① 基本は「教える」のではなく「支援する」こととし、生徒の自主性を尊重する。 ② (各自設定)	A	クラスや部活、生徒会など様々な場面において生徒自らが考え課題解決の行動を起こす姿が多く見られた。今後はさらに課題発見も生徒自らが行えるよう促していきたい。	A	今年度より、高校1学年にチーム担任制を導入。 生徒や保護者のアンケートでは、生徒が話しやすい教員に気軽に相談ができるなど、良好な評価を得られた。 教員についても、情報共有や継続した指導のしにくさなどに難しさを感じる場所もあったが、業務分担ができ、お互いに助けあえるようなところで負担感が減るなどよかったと感じる場所も多くあった。 来年度は1・2学年がチーム担任制を実施するため、今年度の経験をもとに、よりよい運営を期待したい。 来年度も、今年度に続き多くの生徒が入学されるとのことで、今後も期待をしています。
	2. 率先垂範を実行する。	① 「目指す生徒」を教師自らが実行する。 生徒と一緒に汗を流す。 ② (各自設定)	A	日々の学校生活や学校行事において、教員が先頭に立ち、生徒の意欲を引き出す場面が多く見られた。今後も生徒に寄り添いながらも生徒の主体性を引き出す指導をしていきたい。	A	
	3. ビジョンを持って一生懸命努力する。	① できない理由を探す前にまずやってみる。 ぶれないこと、あきらめないことを意識する。 ② (各自設定)	A	クラス運営や進路指導において、教師の使命を果たそうと努力する姿が見られた。校務分掌の業務においては、与えられた仕事をこなすだけでなく、工夫し改善する意識を求めたい。	A	
	4. 私学人としての自覚と理想を持っている。	① 私学だからこそできること、やるべきことを考え実行する。 保護者と良いリレーションを築く。 ② (各自設定)	A	私学にとって生徒数確保は死活問題である。その点で言えば、在校生とその保護者の評判は良く、口コミ等によって次年度の生徒数確保にもつながっていると感じている。	A	
	5. チームとしての教員集団である。	① 常にコミュニケーションを図る。 対話による相互理解と問題の解決を図る。 ② (各自設定)	A	日々の業務の中で足りないところをお互いにカバーしあうチームワークは非常に感じられたが、まずは全教職員が自分の役割・責任を全うするというところを徹底したい。	A	
学習指導	「対話的な学びの創造」 生徒それぞれの持つ探究の種が芽吹くことを支援し、生徒が自ら学べる場を創る。	① 対話を通じた主体的で学びの深まる授業の探究。 対話を通じた生徒と教師によるホームルームの探究。 ② (各自設定)	B	チーム担任制を導入した新入生の中に教員との対話により、受動的な学びから能動的な学びの実践へ移行ができています。学年進行とはなるが、引き続き生徒の主体性を高めていきたい。	B	総合的な探求の時間などで、自己・他者・社会との対話を通して、生徒自身の主体性を育てている。多くの発見をしてもらいたい。
進路指導	「対話を通じた生徒主体の進路実現」 自分の人生について主体的に考え、自分の理想の進路を切り拓く生徒を育てる。	① 本校の新たな売りとなるブランド化された進路指導の確立。 生徒のキャリアデザインにおける支援。 ② (各自設定)	B	きめ細かい進路指導をしている中で、今持っている力で実現可能な進路目標を掲げる生徒が多い。生徒の自己肯定感を促すとともに、もう1つ上のランクの進路目標を設定させたい。	B	生徒自身が自分の将来についてよく考え、希望する進路に進めるよう、引き続きサポートを期待したい。
生徒指導	「対話を通じた一人ひとりに適切な支援や指導」 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と教職員、といった協働支援を目指す。	① あいさつ、校内外美化、他者尊重、安全安心な学校づくり、生徒会活動の自立支援、リーダーの育成、校則づくり ② (各自設定)	A	あいさつや校内美化については学外の方からもお褒めの言葉をいただいている。他者尊重についても、いじめ等の相談は皆無であった。生徒会が中心となり、新たな校則づくりにも取り組んだ。	A	来校時に生徒から元気なあいさつをもらっている。 時代にあった校則づくりにも期待している。

令和5年度 静岡大成高等学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
ICT技術	「ICTスキルの向上」 生徒と教師がともに切磋琢磨し、ICTスキルの向上を図る。	① ICTに関連する自己管理能力の向上。 情報セキュリティに関する意識レベルの向上。 ② (各自設定)	B	一人1台タブレット導入の3年目、全校生徒がiPadを持ち、学習の場で利用することができている。しかし、学習アプリ等の積極的活用についてはまだまだ改良の余地があると考えている。	B	導入から3年経ち、全校生徒が授業でiPadを使用して学習ができている。早くから導入ができ良かったと思う。
当事者意識による組織づくり	1. 対話によるコミュニケーションの充実	チーム担任の実施、報告・連絡・相談の実行。	A	チーム担任制の効果は教員同士のコミュニケーションに比例する。その点では、今年度の1年部はおおむね良好であった。次年度以降、新たにチームを組む教員陣の報・連・相も徹底したい。	B	会議時間の短縮、定時退勤日の設定など、教職員が働きやすい環境づくりをしており、ワークライフバランスの推進にも期待する。 地域交流について、今年度は町内において、静岡福祉大学と連携し、例年のパソコン講座に加え、「大学福祉講座(認知症講座・介護講座)」の開催となったことも良かった。
	2. 業務内容と勤務状況の改善	実のある円滑な会議の実施、時間外勤務時間の短縮。	A	事前に会議資料を読み込んだ上で会議に参加することにより会議時間の短縮を図ることができた。また、毎週月曜日を定時退勤推進日とし、ほとんどの教員が実践できていた。	A	
	3. 法令や服務規律の遵守	体罰・暴言の撲滅、規則・規程・約束事項の遵守。	A	体罰・暴言の禁止といった法令に定められている事柄はもちろん、ハラスメントの防止や出退勤、年休取得などの職務規程に定められている項目についても遵守することができた。	A	
	4. 社会意識の向上	保護者対応のスキル向上、地域交流や広報活動の推進。	A	チーム担任制により保護者対応のスキルアップにつながったが、まだ社会人としての意識が弱い教員がいることも否めない。地域交流・地域貢献については積極的に行うことができた。	B	
	5. 教育環境の整備	整理整頓の徹底と掃除の実施、経費節減意識の向上。	A	社会全体がペーパーレスになってきていることもあり、教室や職員室は整理整頓しやすくなってきている。掃除や節電についても、教員の意識は年々向上していると感じている。	B	